

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2694000049		
法人名	メディカル・ケア・サービス関西株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム京都洛西(ひまわり)		
所在地	京都市西京区大枝東長町1-68		
自己評価作成日	平成30年9月30日	評価結果市町村受理日	平成31年1月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JirvosyoCd=2694000049-00&PrefCd=26&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成30年11月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家族様とのつながりを大切に 1か月に1度家族様をお招きし 入居者様、スタッフとレクリエーションを行っております。また ホーム内に小さい畑を作り 季節の野菜を育てています。梅干・干し柿等も作っています。ケアでは 入居者様が自宅に戻られた時と同じような生活リズム、環境で過ごして頂き出来ることを妨げず支援しています。ホーム独自の理念「介護=快護」を掲げています。入居者様・職員がお互いに笑顔で過ごせる、みんなが快い気持ちになれるようにと思いを込めています。また、地域の一人として様々な行事に参加したり、ホームのイベントにお誘いしたり協力関係を築いています。□

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該ホームは家族が自由に訪れる事ができるホーム作りを目指し、ホームの秋祭りやハロウィン、陶芸など毎月の主な行事は家族と共に楽しめるイベントを企画し、利用者が家族と一緒に過ごせる時間を大切にしています。介護計画作成についても家族の参加を得てサービス担当者会議を開き、本人の暮らしを共に考え支え合う関係を築いています。また週に1度全国から湯の花を取り寄せ温泉の日を設けたり、利用者と一緒に作るイベント食やおやつ作りの他、庭ではバーベキューや焼き芋、夏場は月に数回ビアガーデンを開くなど日々の暮らしを楽しめるよう支援をしています。職員は一人ひとりの暮らしのリズムを大切にされた支援に努めると共に本人や家族の意向に添って医師や看護師と連携を図り、利用者が住み慣れたホームで最期まで過ごせるよう終末期の支援にも取り組んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日、出勤時に運営理念・ビジョンを唱和し、共有しています。	運営理念を基に毎年全体会議で話し合いホーム独自の理念を作成し、更に各フロア毎のビジョンを作り実践に取り組んでいます。毎月のカンファレンスでは理念やビジョンを踏まえて話し合い、年度末には達成状況を振り返り、未達成の項目については次年度へと繋げ新たなものビジョンを作成しています。入職時研修では理念やビジョンについて伝え共有に努めています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に入会し、地域の学校の校外学習の受け入れをし地域との関わりを持っています。	自治会長から回覧板が届き行事への声かけもあり、区民運動会や美化活動、親子連れのイベント等に利用者と共に参加しています。ホームの祭りやハロウィン、バーベキュー等の行事は表に掲示し、近隣施設や地域の方の参加を得て交流を楽しんでいます。また中学生の福祉体験の受け入れやイベント時にボランティアとして近隣の元家族の協力を得たり、地域の方から畑へのアドバイスや農作物が届く事もあり交流を深めています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	来訪、問い合わせの電話、学生の受け入れ等、随時相談にのっています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域役員様、地域包括、福祉施設等の様々な方に出席頂きホームでの取り組み等話し合いサービスの向上につなげています。	会議は民生児童協議会会長や他施設職員、社会福祉協議会会長等の参加を得て開催し、時には家族の参加を得る事もあります。ホームの現状やレクリエーション等の行事報告と予定、ヒヤリハット等の報告を行い意見交換しています。使用している食器について等の質問に答えたり、菜園への助言等をもらい野菜作りの参考に等、得られた意見をサービスに反映させています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議後は必ず、洛西支所に議事録を提出に行き、疑問点等は相談しています。	運営推進会議の議事録の提出や事故報告など役所へ出向く機会も多く、分からない事などを質問しアドバイスをしています。また担当者の出席が得られることもある地域ケア会議への参加や研修案内が届いた際はできる限り参加をしています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に研修や指導を行い 職員に周知しています。	身体拘束適正化委員会を2ヶ月に1度開いたり、身体拘束に関する法人研修や内部研修を定期的に行い研修後は理解度によっては再研修の実施や定期的な自己チェックで更に理解を深めています。出入口は日中は開放しユニット間で連携して見守り、出ていく方には付き添い拘束のないケアを実践しています。夜間付き添いの為のセンサーの使用は家族の了解を得ると共に必要性も検討しています。	

愛の家グループホーム京都洛西(ひまわり)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホーム内研修にて高齢者虐待防止関連法について研修をしたり、入居者様との関わりの中で日々スタッフ同士で注意しながら身体拘束防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者様の中に成年後見制度を受けておられる方がおられ、運営推進会議にも司法書士の方が参加して下さっており、内容についても学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に契約書を1字1句読み合わせ、その都度疑問があれば質問に答えるようにして、ご家族様の理解・納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に1度、ご家族様アンケートを取っており、ご要望やご意見に対し取り組みを行い、運営に反映させている。	利用者からは外出や食べたい物の希望も多く日々の中で外出や食事に取り入れています。家族の意見は面会時や電話、毎月家族参加型のイベントを行い言いやすい関係作りに努め、年に1度アンケート調査も実施しています。家族の意見を受けて菜園作りを始めたり、衣類の間違いについては職員へ注意喚起を行い再発防止に努めるなど職員間で検討し速やかに対応しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に行うカンファレンスにて意見や提案を聞いたり個別に話す機会を設け、提案などの実践に取り組んでいる。	職員は日々の業務の中や月に1度のカンファレンスで意見や提案を出し、会議を欠席する職員は事前に意見を提出しています。職員は活発に意見を出しており、布団乾燥機などの物品購入や利用者状況に応じた席替えなど職員間で検討し意見を取り入れています。また管理者は職員から随時話を聞いたり、年に1度法人による職員アンケートも行い待遇改善などに繋がっています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年、職員アンケートや表彰制度・様々なコンテストなどを行い、職員のモチベーションアップにつなげている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎年、研修計画を立てて関西のホームの中で他職員と一緒に研修をおこなったり、外部研修もすすめている。様々な資格支援もおこなっている。		

愛の家グループホーム京都洛西(ひまわり)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所への挨拶まわり・イベントなどの交流を通じてネットワークを構築しています。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメント時、不安や希望などをできるだけ聞かせていただき、スタッフとケアについて話し合いを行い、信頼関係構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	アセスメント時、入居者様と共にご家族様の不安や希望をできるだけ聞かせていただき、信頼関係構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様・ご家族様と入居前にしっかりと話し合いを行い、入居者様・ご家族様が「こうしたい・こうして欲しい」と思っておられることに対して、その人の為にならないと判断した場合は相談し他サービスについても話し合いを行うようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できることはできるだけおこなっていただき、できない所だけをお手伝いさせていただくようにしている。その他、様々な事を教えていただいたりしながら双方に支えあう関係を構築している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	何か困りごとや助けていただきたいこと等あれば、ご家族様に連絡し相談相談させていただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様との話の中で出てきた馴染みの人の話をご家族様に伝えて支援していただいたり、住んでおられた場所に散歩やドライブに行ったりしている。	近所に住んでいた方や友人等の来訪時は居室や廊下の奥のベンチにテーブルを用意し、ゆっくり話せるよう配慮をしています。職員が付き添い馴染みの百貨店や努めていた場所をドライブしたり、友人からの電話を取り次いでいます。また家族と馴染みの美容院や冠婚葬祭に出かける際は身支度や近い場所であれば送迎したり、会いたい人を家族に伝え面会に来てもらったこともあり、家族の協力も得ながら大切に支援をしています。	

愛の家グループホーム京都洛西(ひまわり)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士で助け合ったり(家事など)状況に応じて入居者様同士が関わりあえるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後もご家族様と連絡を取り、ホームのイベントなどに参加していただいている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時にホーム独自のアセスメントを用い、本人の意向の把握に努めており、センター方式の一部も使用している。	入居前に本人や家族から暮らしへの意向や趣味、生活歴等を聞いたり、前の担当者からの情報や家族から生い立ち等を書いてもらう事もあり、意向の把握に努めています。入居後は日々職員が気づいた事柄や本人の言葉等は介護記録や連絡ノートに記入して共有し、思いの把握が困難な場合は家族に聞いたり、ケアの中で様子や表情から汲み取り、カンファレンスで思いの把握に向け検討しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	最初アセスメントを取りますが、生活している中で気付いたこと・ご本人様が語ったことやご家族様に伺ったことなどを追記し把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活を送っている中で、常に状態観察を行い、把握に努め申し送りも行き、職員間で共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月、担当ごとにモニタリングを行い、サービス担当者会議を開き、介護計画を作成している。	本人の意向を基に家族の参加を得てサービス担当者会議を開き介護計画を作成しています。家族の参加が得られない場合や医師や看護師の意見は事前に確認し反映させています。毎月のカンファレンスで変化が無いかを確認し3ヶ月毎に全職員が項目毎に評価したものを集約しケアマネジャーの意見を踏まえ計画を見直しています。また利用者毎に3~6ヶ月で再アセスメントを行っています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に介護計画を作成し、申し送りを詳細に行い、情報共有しながら実践したり、介護計画を作成している。		

愛の家グループホーム京都洛西(ひまわり)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その人が望むことをできるだけ支援できるよう取り組んでいる。状況に応じてご家族様にも協力をお願いしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会の会合に出席したことで、地域の様々な取り組みに参加することができる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に1回、往診医に来て頂いており、緊急時も24時間医師の指示を受けることができる。週1回看護師が勤務し、受診介助や医療連携をおこなっている。	入居時にかかりつけ医を選べる事を伝えていますが内科については全利用者が協力医に変更し定期的な往診と状況により随時の往診を受けています。専門医は口頭や書面で利用者の状況を伝えて家族と受診し、結果報告も受けています。体調の変化があれば看護職員や訪問看護師の指示をもらい対応しています。訪問歯科や医師の指示や家族の希望で訪問マッサージを受ける方もいます。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携記録に看護師が情報や往診内容を記録し、スタッフも気付いたことを記入したり口頭で伝えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際に病院関係者との情報交換や相談に努めている。緊急時は往診医が病院への働きかけもしてくださっている。毎月病院への挨拶まわりもおこなっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様との契約の段階で、重度化や終末期に向けた方針の話し合いをおこなっている。ホームとして看取りに向けた話し合いをおこなっている。	入居時に看取りに関する指針を基にホームの対応について説明し、これまで殆どの方を家族と共にホームで支援しています。重度化した場合は家族の意向を再確認し、看取り希望の場合は往診医から家族へ説明が行われ方針を話し合っています。家族には好きな物を持ってきてもらったり、付き添いなどの協力を得ながら医師や看護師と連携を図り終末期の支援に取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	心肺蘇生法やAED講習を受講済みであり、新人職員に対しても、消防署の救急講習受講を促している。		

愛の家グループホーム京都洛西(ひまわり)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練にて訓練を受けている。全職員が緊急時の避難場所も把握している。災害時の自治会との連携も取れている。	年に2回消防署立ち合いの下行う消防訓練は夜間を想定し初期消火や利用者の避難誘導、水消火器の使用方法等を行い、会議時にも防災について話し合い学んでいます。訓練の際は運営推進会議で案内し、近隣にはポスティングで協力を依頼しています。また災害時には自治会との協力関係を築くと共に水や缶詰、かゆなどの食糧を備蓄し2年に1度入れ替えています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日頃から職員間で注意しあいながら、人権の尊重や自尊心に配慮した言葉掛けをおこなっている。	年に1度プライバシーや接遇に関する研修を行うと共に定期的に不適切ケアチェック表を用いて日頃の言葉遣いや対応を振り返る機会を持っています。利用者への声掛けは本人に分かりやすい呼び方をしますがありますが苗字での声掛けを基本的に丁寧な声掛けや対応に努め不適切な対応が見られた場合はその都度指導をしています。希望がある場合は同性介助にも配慮しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ケアの中で、入居者様ご本人がおこないたい事を実施できるように、随時声掛けなどの働きかけをおこなっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりが居室で過ごしたり、リビングでテレビを見たり、歌を唄ったり、家事をしたりと、ご本人のペースで過ごされている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣時、「今日はどの服にしましょうか？」と伺い選んでいただいています。装飾品のお好きな方は毎日身に付けておられます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日、食事の材料を切ったり、皮を剥いたり、お盆の用意や後片付けなどもして下さっています。おやつ作りなども一緒におこなっています。	献立は本社から届き利用者の好みや畑の収穫物を取り入れてアレンジし利用者と職員と一緒に作り食べる事を大切にしています。お節料理や流し素麺、バーベキュー、夏は月に数回庭でビアガーデンを開きノンアルコールを飲んだり、掘った芋で焼き芋など家族や時に地域の方も一緒に食事を楽しんでいます。また五平餅やケーキバイキング、たこ焼きをしたり、少人数でフードコートやファーストフード、寿司などの外食も楽しんでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量などを記録に残し、体重やその方の状態に応じて食事量などを調整し支援している。		

愛の家グループホーム京都洛西(ひまわり)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、必ず口腔ケアをおこなってもらえるよう声掛けを行い、実施していただいている。週1回の歯科往診にて口腔状態も診ていただいている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、表情や仕草等を観察し自尊心に配慮しながら声掛けおこない、トイレ誘導を行うことで自立に向けた支援をおこなっている。	排泄チェック表を参考に一人ひとりの排泄リズムを把握し、夜間ポータブルトイレを使用する方や重度の方も日中は二人介助で全員がトイレで排泄ができるよう支援をしています。カンファレンスで本人に合った排泄用品や支援の方法を時には家族も交えて検討しています。また退院後は全員が元の状態まで改善したり、支援を継続することでトイレに行く習慣が戻るなど自立に向けて支援をしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、ヨーグルトを摂取していただいたり、入居者様によっては食後の運動や、その入居者様にとって便秘に効くと思っておられる物を提供したりと個々に応じた予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本は午後入浴であるが、個々の入浴希望に合わせて柔軟に対応している。季節によっては、菖蒲湯やゆず湯等も楽しんでいただいている。	入浴は週に2回午後から一人ずつ湯を入れ替え、希望がある場合は回数を増やしたり、夜間の入浴にもユニット間の職員が協力し対応しています。職員とマンツーマンで本人のペースで入れるよう支援し、季節の柚子や菖蒲湯、入浴剤の他、週に1度全国から湯の花を取り寄せて温泉を楽しんでもらっています。入浴を断る方には職員の交代や日時を変更する等無理の無いよう対応しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様に合わせて過ごしていただいております。居室でテレビを見たり、お昼寝をしたり、リビングで休まれたり、夜眠りにくい方にはコーヒー等の刺激のある飲物は午後からは控えるようにしています。就寝前にはホットドリンクを飲んでいただいたり安眠にもつなげている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容を常に把握しており、入居者様の状態を見ながら往診医・看護師と相談しながら服薬支援に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事が得意だったり、大好きだった人には料理や掃除などをしていただいたり、食事に関しても昔から好きだった物や広告を見て欲しい物などを購入したりと個別で楽しませています。		

愛の家グループホーム京都洛西(ひまわり)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出はできるだけご本人の希望に添えるよう支援しています。散歩や買物など日常的に外出しています。ホームとしてすぐに行けない場所などは、ご家族様に連絡して相談させていただいています。	日々の散歩やドライブ、テーブルセットが置かれた広い庭に出たり、玄関先や菜園で育てている花や野菜の世話や収穫等日常的に外気に触れる機会を多く作っています。また年間を通して初詣に始まり、梅や桜等の花見や紅葉狩り等、時には家族と一緒に掛かけたり、運動会等の地域行事にも出かけています。また田舎に行きたい等の遠方への外出は家族の協力を得ながら支援しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる方やお金を持っていないと不安とおっしゃられる方については、ご本人で管理されています。(ご家族様了承)買物に行くとき自ら出されることもあります。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話のご希望があれば、掛けていただいています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月、季節に合わせて壁紙を張り替え季節感を出している。リビングには加湿器を抗菌作用のあるソリューションウォーターを設置しています。テレビの音量にも気をつけ、定期的に窓を開け換気にも気を使っています。	共用空間は紅葉の写真を飾ったり、季節毎にクリスマスツリー等の飾りつけや毎週花屋から届く花を利用者と生け、季節感のある空間作りをしています。テーブル席は利用者の状況に合わせて随時変更し、テレビの前に寛げるソファを置いたり、廊下の奥の作り付けベンチは静かに外を眺めたり昼寝等に利用されています。また乾燥する季節は加湿器を置き、室温は利用者の声も聞きながら過ごしやすいよう調整しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでは1人になれる場所が作りにくいですが、気の合った入居者様同士で過ごされることが多くあります。廊下の奥にはソファを設置しており、1人になれる空間となっています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に自宅で使い慣れた物や大切にされていた物(お仏壇やアルバムなど)を持ち込んでいただけており、自宅と同じ様な環境で暮らしていただけるようにしております。	居室には筆筒や飾り棚、籐の椅子とテーブル、椅子で入れる炬燵など自宅から使い慣れた家具が持ち込まれ、本人と家族が相談し過ごしやすいよう配置をしています。また仏壇や遺影、アルバムなどの大切な物、好きな花の写真や日本人形、刺繍などの自身の作品や孫の写真なども飾られその人らしい居室となっています。日々の掃除や換気にも留意し清潔な住環境を整えています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自力で歩行できて、その日の状態を判断できる方は状態に合わせて杖を持ったり、手すりを持ったりして歩行されています。判断が難しい方には、スタッフが日々の状態を観察しながら、その都度声掛けを行い、自立した生活を送れるよう支援しています。		